

教頭の小部屋

2021.2.9
その6



毎年書くネタであるが…、「今年もこの時期がやってきたのである！」

毎年この時期に家に帰ると、台所にマシュマロやクッキーやチョコレート、その他デコレーション用の細々したものが置いてあるのである。今年もバレンタインデーの季節がやってきたのだ。大学時代まで細マッチョな体とキラスマイルの持ち主であった私は、竹〇涼真君が思わず嫉妬してしまうぐらいの、まずまずの…、いや、そこそこのモテモテ君だったのである。小学校時代から、この時期に「今年も、またもらっちゃうのか。フ〜、ホワイトデーが大変だぜ〜。」と、ちびまる子ちゃんの友達、花輪君のように前髪をかき上げながらよくため息をついていたもんだ。現在は、細マッチョな体を脂肪で隠し、花輪君ではなくサンド〇イチマンの富澤似の笑顔を武器に、「ちょっと何言ってるかわかんない…。」ではなく、「学校にチョコレートを持ってきちゃいかんよ。」と声をかけるようになった。それは私が、娘達からさえチョコレートをもらえなくなったひがみからくる言葉ではなく、過去こんなことがあったからだ…。

ずいぶん前の話ですが…。チョコレートや手作りのクッキーやケーキを友だちと交換し合う、いわゆる友チョコ。学校に持ってこないようにと連絡をしてあったにも関わらず、休日の部活動後に、部室で友チョコ（ケーキ）を持ってきた生徒（女の子）がいた。その場で包みを開け、部室で着替えていた友だち数人に「ハイ！」とケーキを手渡す。しかし、「それはいけないこと」と判断し、ケーキを受け取らなかった女の子が一人。ケーキを断ったことが元で、ケーキを受け取らなかった子は、友だちから仲間はずれにされるようになった。数日後、「仲間はずれにされている。」と保護者から連絡があり、先生達か話を聞くこととなった。関係生徒から話を聞いていると、バレンタインが原因と分かった。話を聞く中で、ケーキを受け取った子達も「（そんなん持ってきたら）そらあかんやろと思ったが、（もらうのを）断ると角が立つので嫌々もらった。」と話をした。結局「友チョコでケーキ持ってきてん、みんなで食べよう！」と言って友だちにケーキを配った子は、先生からの話の後「誰がチクったんや！」と息巻いていたらしいが、「みんな、嫌々もらっていたんだ…」と、みんなの気持ちを知り、友だち関係がぎくしゃくした。

友チョコに関わった全員の友人関係がギクシャクしただけではなく、「おまえ達なにやってんねん！」と、この一件に関わらなかった同じ部活の部員達からも信頼を失い、部活動に居づらくなったことも事実である。これはほんの一例であって「もらった。」「もらっていない。」など、バレンタインがきっかけで人間関係が崩れたケースをいろいろ見てきている。だから「持って来ちゃ、イカンよ。」なのである。世間一般には「バレンタインは特別にOK」「先生も黙認」という風潮があるようだが、狭間中では不要物として扱う。

余談であるが…。みんなは知っているだろうか。バレンタインはイタリアの神父さんの名前なのである。皇帝が出した結婚禁止令に反して、隠れて結婚式を挙げさせていた聖バレンタインは、最終的に投獄・処刑されてしまうのだが、バレンタインという名前は愛の象徴としてこの世に残っている。昨今「友チョコ」なんて言葉が当たり前に使われているが、聖バレンタインがもし今生きていたら「フ〜。ねえ教頭、友チョコだってさ…。」と嘆いてしまうに違いない。いずれにせよ、友チョコも含めてであるが、どうしてもチョコレートを渡したいのならば、学校ではなく、お休みの日に家まで行って、ドキドキしながらインターホンを押すのだ。インターホンを押した結果、男の子のお母さんが出てきて「〇〇〜！女の子がチョコレート持ってきてくれてるわよ〜。早く来なさい！」とニヤニヤ

されても、それはバレンタインの思い出なのである。ああ、学校にもって来ちゃ、イカンよ。

ちなみに最近うちの娘たちが作るチョコは、ガトーショコラなど手が込んでいる。毎年、チョコを作っている姿を「ほほ〜う。」と眺めるのだが、娘たちが作ったチョコは私の口には入ることはない。令和は『友チョコ』ではなく『パパチョコ』の時代であってほしいと…。

切に…、切に願うのである。



保護者の皆様へ

余談が多くなってしまいましたが…。上に書いたバレンタインのことですが、話をした生徒の保護者も、当初は「先生、バレンタインぐらいで…。」と笑っておられたのですが、自分の娘の人間関係が崩れ、部活動に行きづらくなった時には、保護者の方も「先生。どうしたらいいでしょう…。」と苦しんでおられました。ルールやマナーは人が集団で生活するようになり、その生活で経験したことを元に、みんなが気持ちよく過ごすための、言わば先人の知恵ではないかと思います。決して、バレンタインがだめなのではなく、バレンタインで好きな子にチョコをあげることがだめなわけでもなく、集団生活の中にトラブルの種になるような物を持って入ることが、私たちは心配なのです。是非、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。